



PTA会報 四日市高



校内体育大会
5月9日(火)

1年

優勝/1年7組
2位/1年4組
3位/1年8組

2年

優勝/2年7組
2位/2年5組
3位/2年3組

3年

優勝/3年8組
2位/3年5組
3位/3年6組



発行 三重県立四日市高等学校PTA
令和5年7月11日



新たな一歩へのご挨拶

PTA会長 林 宏樹

平素は、PTA活動にご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年度のPTA会長に選出されました林と申します。この場を借りて、新たな活動年度が始まるにあたり、心からの挨拶を申し上げます。

まず第一に、ご参加いただいている全ての保護者の皆様のご協力に感謝を申し上げます。皆様の協力とサポート無しには、PTAの活動は成り立ちません。ご家庭やお仕事の忙しい中で、学校との連携にお時間を割いていただき、本当にありがとうございます。

さて、子供も高校生になり、日々の生活の中で自己発見と自己責任の重要性を学び、困難に立ち向かう

経験を通じて、自信と成熟を培いながら少しずつ大人に近づいていきます。

その成長に遅しさを感ずると共に、子供離れの時期が近づいている事に寂しさも感じています。

そのような中、私たちは子供たちが安心して学び、成長できるような環境を共に作り上げる責任を担っています。

今年度のPTA活動では、四高祭への参加、京都研修会などのイベントに加え、土曜学習や校外模試といった学習の場の確保、購買部などを通じた物品や資金面のサポートなど様々な取り組みを計画しています。これらの活動を通じて、学校全体の連帯感を高め、子供たちの教育に貢献していきます。

また、PTAは情報共有の場でもあります。学校や教育に関する情報やイベントの案内、保護者同士の交流など様々な情報を提供していきます。子供たちの学校生活をより良く理解し、サポートするために、積極的に参加していただければと思います。

最後になりますが、PTAは皆様の声を反映する場でもあります。何かご意見やご提案がありましたら、遠慮なくお知らせください。子供たちが安心して学び成長できるよう、より良い学校環境を作り上げるために努力します。

今年度も一緒に協力し、素晴らしいPTA活動を実現しましょう。保護者の皆様のご支援に心より感謝申し上げます。



幸いの新時代を創る子どもたちのために

校長 諸岡 伸

保護者の皆さまにおかれましては、平素から本校の教育活動、PTA活動にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

長らく、学校教育に制限を及ぼしてきた新型コロナウイルスのいわゆる5類移行により、教育環境もようやくコロナ前の状況を取り戻しつつあります。

しかしながら依然として、世界は政治や経済、自然環境など、不安定な状況下にあり、私たちの日常もその影響を大きく受けて、先行きの不透明な時代が続いています。親、教師としてはつらいことですが、子どもたちの世代は今後、何度か厳しい試練を経験することになるかもしれません。しかし、従来のような管理的な教育、知識重視の教育では、子どもたちが予測していなかった事態に当たった時に、自らの力で苦

境を乗り越えていくことは困難に思われます。

このような時代にあつて、四日市高校では、生徒が将来にわたって、前向きな態度で、仲間と協働して困難に立ち向かい、あらゆる分野をリードし、新しい幸福の時代を切り拓く人として活躍できるよう、教育の在り方を転換させています。

具体的には、知識の基盤となる学力の育成はもちろんのこと、SSHや部活動、国際交流など、学校内外のあらゆる活動に主体的に参加し、成功の喜びや失敗の悔しさ、仲間と事を成し遂げる難しさや、一体となって成就する達成感を体験することが、生徒たちの将来の大きな糧になると考えて、教育活動を進めています。また、学習の進め方も、課題の提出など「結果の管理」よりも、「目標に向けた過程、計画の指

導」に重きを置くようにして、生徒自身が「自律した学習者」へと転換するよう図っています。

このような教育は、学校だけでなく、生徒や保護者の皆さまが、その目的と方法を共有してこそ、効果を一層大きくするものです。引き続き、本校教育活動へのご理解をお願いしつつ、PTA活動を通じまして、皆さまのご意見やご要望を伺いながら教育の充実を図ってまいります。

今号で、PTA会報100号の記念となりますが、学校といたしましても、今後とも保護者の皆さまと一体となって、生徒を支えていけるよう努めていくことをお約束いたして、この記念号をお祝いいたします。



PTA職員紹介

- ① 高辻 章江さん [PTA進路担当]
- ② 大橋美沙子さん [PTA庶務担当]
- ③ 加藤久仁子さん [PTA購買担当]



PTA本部役員紹介

- ① 会長 / 林 宏樹
- ② 副会長 / 山路 裕子
- ③ 副会長 / 杉村しのぶ
- ④ 副会長 / 西田 和宏
- ⑤ 副会長 / 松田 実帆
- ⑥ 会計 / 伊藤 聡子
- ⑦ 会計 / 高田 真澄
- ⑧ 書記 / 田中麻里子
- ⑨ 書記 / 西川 美穂

PTA総会

去る5月13日(土)、令和5年度PTA総会が開催され279名の保護者の皆様にご参加いただきました。ご多忙の中、誠にありがとうございました。

総会に先立ち、諸岡校長先生より子供たちの学校生活の様子や学校経営方針についてご説明があり、「学校生活を通じて、将来あらゆる社会で活躍できるように、何事にも立ち向かう姿勢を身に付けさせたい。」とのお言葉に、心強く思われた方も多かったのではないのでしょうか。



PTA総会・進学講演会報告



総会では、PTA会則改定を含む全7議案について、承認を得ることができました。役員改選では加藤前会長、廣野前副会長から退任の挨拶後、林新会長は、「先生方と協力して、子供たちが安心して学校生活を送れるよう尽力していきたい。」と抱負を述べました。会長のもと、役員同じ気持ちで活動して参ります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



PTA進学講演会

5月13日のPTA総会后、(株)ベネッセコーポレーション名古屋支社の服部健治様をお迎えし、「入試環境の変化と学びの王道を考えると題してご講演いただき、多くの保護者の皆様にご参加いただきました。

講演では、「最新の入試や共通テストの概況」(新課程入試へ進路の考え方)「保護者が意識すること」について様々なデータを元にご説明頂き、近年の入試傾向を踏まえた進路選択の考え方についてお話し頂きました。

入試状況は常に変化しているが、新聞等の活字を通じて様々な分野に接し、自ら情報を読み取る力を高めていくことがよい結果につながるポイントの一つであるそうです。

保護者が意識すべき事としては、子どもの入試に対する不安は想像以上に大きいことに十分留意し、子どもの考えを聴きとれるよう質問に配慮すること、さらに志望校が曖昧な人に向けたアドバイスとして、キャリアの多くは予期しない出来事によって成り立っており、視野を広げチャレンジし続ければ大丈夫、といった子どもとの関わりの中で参考になる多くのご助言を頂きました。

令和5年度主なPTA行事

●8月29日(火)●
四高祭への参加

四高祭(文化祭)は、
8月30日(校内)
31日は四日市市文化会館
にて開催

●9月2日(土)●
午前:1学年合同保護者会
午後:2学年合同保護者会

四日市市文化会館
第1ホールにて開催

●10月3日(火)●
文化行事

演劇「わたしとわたし、ぼくとぼく」
四日市市文化会館
第1ホールにて開催

●10月17日(火)●
PTA京都研修会



2023年度入試を振り返って...

1 大学入学共通テスト

◆大学入学共通テストの志願者数と受験者数は前年並み

2023年度大学入学共通テスト(以下、共通テスト)の実施3日目となった本年度は、1月14・15日(追・再試1月28・29日)に実施されました。今年度の志願者数は512,581人(前年比97%)、受験者数は474,051人(前年比97%)と、昨年よりも減少しました。コロナ禍以前の2020年度までの入試と比べると、受験率がかなり低く、共通テストを出願したものの、コロナ禍などを理由に受験をとりやめた者が例年以上に多かったことを示しています。

◆共通テストの平均点は回復

文系・理系ともに高得点者が倍増
2018年の「試行テスト」の段階では「大学入学共通テスト」は5割くらいの平均点を目標すように作成する」としており、「共通テストはセンター試験よりも難しくなる」と予想されていました。ところが第1回であった一昨年度は、センター試験であった3年前よりも平均点が上昇し、センター試験と同様に「平均点6割」になるような出題であったと言えます。

しかし、昨年度は、当所の予想通り、文系・理系ともに大幅に平均点が下落しました。「数学I・IA」「化学」「生物」「日本史B」など、実に7科目の平均点(大学入試センター公表)が、センター試験時代を通じて過去最低点となりました。

総合型の平均点(河合塾公表)は、文系7科目型(900点満点)が507点(昨年比-48点)、理系7科目型(900点満点)が510点(昨年比-61点)と、文系・理系ともに大幅にダウンしました。高得点層でもその影響は強く、従来では難関大に必要とされていた得点率8割(720点)以上の受験生は、文系型では前年比34%、理系型では同38%と、いずれも前年の約1/3にまで激減しました。

共通テスト3日目となった今年度は、昨年度大きく落ち込んだ「数学I・IA、II、IB」「化学」「日本史B」などの平均点が大きく上昇し、センター試験に近い点分布となり、得点率8割以上の高得点層が前年から倍増しました。一方で、理科では、物理と生物の平均点差が、20点以上となり、生物・化学に得点調整が行われるなど、教科・科目による平均点管理が不安定である面もみられました。

共通テストの得点が不安定な傾向は、今後も続く可能性があります。難関大は特にですが、共通テストでの得

点差を心配するより、より一層、2次試験(個別試験)の実力を磨くことが合格への王道になってきます。

なお、自己採点による四日市高校の平均点は、文系7科目型が664・1点(昨年比+46・2点)、理系7科目型が647・5点(昨年比+24・8点)となっています。本校でも高得点者が昨年よりは取りやすい状況であったことから、平均点が大きく上がる結果になったと考えられます。

2 国公立大学

◆国公立大の志願者数は前年並み

国公立大入試の中心である前期日程の志願者数は231,430人と、過去最少の志願者数を更新しましたが、18歳人口の減少により大学志願者数そのものが減少したことが国公立大の志願者数にも影響を与えており、国公立大が敬遠されているわけではないようです。国立大では、難関大を中心として、志願者は、国公立大学全体に比べて高い前年比を保っています。

後期日程の志願状況は、前年比と同様でした。今年度は共通テストの平均点上昇に合せ、難関大の後期日程にも積極的に出願しましたが、私立大の受験数は、一般選抜と共通テスト利用方式を合わせて昨年比で延べ200校増加(現役生)しました。コロナウイルスの感染拡大に一定のめどが立ったことが出願校が増加した原因の一つと考えられます。

◆難関国立大は強気の出願

難関国立10大(北海道大、東北大、東京大、東京工業大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大)全体の前期日程の志願者数は55,662人(前年比99%)であり、昨年度から300人減少しました。国公立大全体の前期日程の志願者数が昨年比98%であったことから、今年の受験生も昨年度同様に積極的に難関大にチャレンジした様子が見られます。

また、近年は難関大でも、学校推薦型選抜や特色化・総合型選抜が導入されてきています。これらの選抜方式では、その出願基準が大学・学部によって定められるとともに、共通テストの基準点等が設けられるなど、一般選抜よりハードルが低いわけではありません。自分自身の興味・関心や高校時代の取組等で受験を考えている生徒は、一般選抜でも合格できるような実力をつけながら、挑戦することが求められます。

なお、四日市高校では2023年度入試において、116名(現役72名)が難関国立10大+国公立大医学

部医学科に合格しています。

3 学部系統別の入試概況

新型コロナウイルス感染拡大により景気後退が懸念されています。就職状況が悪化すると、過去のバブル経済の崩壊後やリーマン・ショック後と同様に理系人気が高まり、「理高文低」の傾向が出ています。文系では、「文・人文」「社会・国際」で減少が目立ち、「法・政治系」は例年並み、「経済・経営・商系」は、志願者が増加しました。

法・経済系の人気は、コロナ禍での就職を意識したものでありと分析されています。

「教育・教員養成課程」は全系統の中で最も倍率が低く、募集区分単位でみると、今春は3分の1が1倍台となっており、競争緩和がすすんでいます。

理系では、今年度も「農」が前年比で多く集まっています。SDGs(持続可能な開発目標)への関心の高まりからの志願者増といわれています。医療系は、難関資格に関連が深い「医」「歯」「医療技術」などで人気が高まり、この分野は、堅調な人気を示しています。

4 2024年度入試に向けて

共通テストではセンター試験に比べ、グラフ、地図写真、文章など読み取る資料の分量が全体的に増加しています。さらに、授業における学習場面、日常生活の中から課題を発見して解決方法を構想する場面、資料やデータをもとに考察する場面など、科目を問わず「思考力・判断力」を意識した出題があり、センター試験からの変更が多々見られました。

また、各大学の個別試験においても、従来からの「知識・技能」に加え、「思考力・判断力・表現力」が必要な問題が作成されてきています。「思考力・判断力・表現力」は短時間で身に付けることができません。実力試験・実力養成試験等を利用し、確かな記述力を身につけることが大切です。

現2学年が対象となる2025年度入試は、「新課程」入試となります。共通テストの教科も「情報」が入り、「国語」「数学」においても、内容や試験時間が変わります。

2024年度入試は、その前年度入試と変わり、一般的には、受験環境の変化を嫌って、より現役志向・安全志向が高まると言われています。しかし、本校においては、これまでも、課程の変わり目や、受験教科・科目の増加センター試験から共通テストへの転換期等においても、世間一般の「現役志向・安全志向」に影響されることなく、第1志望にこだわる出願を貫いてきました。新課程前年度の2024年度入試であっても、高い志望を持ち続け、第1志望にこだわって挑戦し続けていくことが志望校合格への王道かもしれません。

※文中の全国の数値は河合塾の調査より

煌星 きらぼし

〜今も昔も〜

授業中の真剣な眼差し、昼休み中の談笑、体育大会での声援、放課後の自習室で黙々と取り組む姿、それらすべてがエネルギーと個性に満ち溢れています。

校内・校外で活動する生徒さんが身近に存在する日々は当たり前の日常かもしれません。が、県教育委員会事務局で9年ほど勤務し、生徒の皆さんから遠ざかっていた私にとって、そのような生徒さん一人ひとりの姿に目映いほどの輝きを感じ、その近くにいられることの幸せを感じる毎日です。

また、5月のPTA役員会では、各地区委員さんの講話を交えた自己紹介をお聞きするにつけ、保護者の皆様と私たち教職員が協力しながら、このすばらしい生徒さん一人ひとりの輝きを共に支えていけることを確信しました。

本校には県内の幅広い地域から多彩な才能が集まり、生徒さん一人ひとりには、自己実現するだけでなく、互いの個性や文化を尊重する豊かな教養を身につけ、社会を幸福へと導いてくれる大きな人へと成長していただくことが期待されています。

大学入試制度を含め、教育や社会をめぐる環境も目まぐるしく変化し続け、私たち教職員は試行錯誤の日々を過ごしております。先ほどは、保護者の皆様と教職員とともに生徒を支えること述べましたが、むしろ、生徒さん一人ひとり、今も昔も変わらぬ煌星として、私たち教職員や保護者の皆様を照らしてくれているのではないかと、思われ、それに恥じない高校教育をともにつくっていきたく思います。



教頭 和彦 宇陀

2023年度

大学等合格者数

(過年度卒生を含む)

国立大学	私立大学
北海道大 1	四日市看護医療大 3
茨城大 5	長浜バイオ大 1
筑波大 1	京都外国語大 1
群馬大 1	京都産業大 2
埼玉大 1	京都女子大 1
千葉大 4	京都薬科大 1
お茶の水女子大 5	京都市立大 1
東京大 17	同志社大 2
東京外国語大 2	同志社女子大 3
東京海洋大 3	立命館大 88
横浜国立大 4	龍谷大 3
中央大 7	大阪医科薬科大 24
信州大 2	関西大 7
静岡大 4	関西外国語大 24
愛知教育大 3	近畿大 1
名古屋工業大 31	関西学院大 12
名古屋大 9	神戸薬科大 24
岐阜大 5	兵庫医科大 1
三重大 45	岡山理科大 1
京都大 14	各種学校 1
京都工芸繊維大 21	防衛大学校 1
大阪大 5	その他 2
神戸大 2	海外 1
奈良女子大 1	専門学校 1
岡山山 1	就職 1
広島大 1	国家公務員税務 1
愛媛大 1	
九州大 4	
長崎大 2	
大分大 1	
琉球大 2	
公立大学 27	
高崎経済大 1	
東京都立大 2	
横浜市立大 1	
岐阜薬科大 1	
静岡県立大 1	
愛知県立大 1	
名古屋工業大 5	
三重県立看護大 1	
京都府立大 1	
大阪府立大 8	
神戸市外国語大 1	
兵庫県立大 7	
私立大学 687	
酪農学園大 1	
東北医科薬科大 2	
自治医科大 1	
千葉工業大 2	
青山学院大 15	
北里大 2	
慶應義塾大 10	
工學院大 3	
芝浦工業大 4	
上智大 18	
専修大 1	
中央大 16	
津田塾大 1	
東海大 2	
東京農業大 1	
東京薬科大 1	
東京理科大 32	
東洋大 1	
二松学舎大 1	
日本大 10	
法政大 25	
東京都市大 2	
明治大 1	
明治薬科大 37	
立教大 6	
早稲田大 19	
麻布大 1	
岐阜聖徳学園大 2	
岐阜医療科学大 1	
名古屋学芸大 7	
愛知大 6	
愛知学院大 2	
愛知工業大 5	
愛知医科大 2	
愛知淑徳大 4	
金城学院大 8	
椋山女学院大 6	
大同大 5	
中大 2	
豊田工業大 7	
藤田医科大 5	
南山大 12	
名城大 52	
皇学館大 7	
鈴鹿医療科学大 13	



就職	その他	各種学校
1	2	1

東京大学見学会

春休み(3月26、27日)を利用し、新2年生を対象とした東京大学見学会を開催しました。3年ぶりのコロナによる制限のない見学会ということもあり、204名の生徒が参加しました。

1日目は、あいにくの雨となりましたが、東京大学本郷キャンパスを訪問し、歴史と伝統を感じさせるキャンパスを散策しました。午後は、全電通労働会館に移動し、駿台の大島先生、本校OB花木さんの講演会や社会人懇談会・OB懇談会を行いました。盛りだくさんな内容ではありましたが、大学入学に向けた学習の話や大学での学問の話、その後のキャリアなど多くの情報と刺激を得ることができました。

2日目は、東京大学のコース別研修を行いました。通常のオープンキャンパスでは見学できない研究室を訪問し、最先端の研究内容に触れることができました。また本校生徒のために特別講義も行っていただきました。また、午後からは任意参加ではありましたが、国会議事堂と東証アローズにも訪問しました。進路や学習に対する意識だけでなく、知見を広げることができた2日間となりました。この経験が生徒を大きく成長させるきっかけとなり、今後の高校生活がさらに有意義なものになることを期待しています。



第3学年 合同保護者会

6月10日(土)、本校体育館にて、3年合同保護者会、および河合塾名駅校長による志望校合格に関する講演会が開催されました。校長先生をはじめ、担当の先生方から生徒たちの現状、今年の大学入試状況、夏期課外親の関わり方など、これから3月までの必須情報をお話し頂きました。大切なお話ばかりでしたが、その中でも心に残ったのは、「今の時期、漠然と子供は不安になり、親は焦るが、結局着実にやっていくしかない」とまた、「多くの家庭では子供と一緒に過ごす最後の1年になる可能性が大きい」ということでした。子供の様子をいつも観察して、いつも悔いの残らない子育てで、親も悔いの残らない子育てで卒業を目標にしていく1年なんだなと思えました。子供たちがしんどいながらも充実した毎日を送れるよう、先生方のサポートに感謝しつつ、親も自分らしく子育てができるよう頑張らねばと感じ入る会でした。



しかし、一方で効率の良さが重視され、自分の意見(よい意味での)こだわりを持った生徒が少なくなってきたように感じます。テスト等の解答に関しても、納得いくまで食らいついていた生徒が減ってきていることが少しさみしく気がかりでもあります。

今の四高生には、学習面だけでなく人間関係においても、じっくりと時間をかけて取り組む習慣、そんな余裕を持つ大人になってくれることを期待しています。



吉川 美紀 保健部主任

四高生 いまむかし

部活動報告

令和4年12月～令和5年6月

運動部

バスケットボール

- 男子
 - ▽三重県高校新人大会北地区予選会(12/17・1/14)
 - 2回戦 四日市 71-76 川越
 - ▽三重県高校総体北地区予選会(4/22・5/3)
 - 2回戦 四日市 59-96 桑名西
- 女子
 - ▽三重県高校新人大会北地区予選会(12/17・1/14)
 - 1回戦 四日市 73-56 四南
 - 2回戦 四日市 57-59 津田学園
 - 順位決定戦 四日市 45-73 海星
 - ▽三重県高校総体北地区予選会(4/22・5/3)
 - 1回戦 四日市 56-67 川越

バレーボール

- 男子
 - ▽三重県高校新人大会(1/14・2/7・5)
 - 予選リーグ 四日市 2-1 高田
 - 予選リーグ 四日市 2-0 名張
 - トーナメント1回戦 四日市 2-0 皇学館
 - トーナメント2回戦 四日市 0-2 松阪
 - ▽三重県高校春季大会(4/22)
 - 1回戦 四日市 0-2 海星
- 女子
 - ▽三重県高校総体(5/26・27)
 - 1回戦 四日市 2-0 名張
 - 2回戦 四日市 2-0 伊勢学園
 - 3回戦 四日市 1-2 津

硬式野球

- ▽春季東海地区高校野球
- 三重県大会 北地区予選(3/21・4/6)
- 1次予選1回戦 四日市 3-6 四日市中央工業
- 2次予選1回戦 四日市 5-4 四日市南
- 3回戦 四日市 11-8 四日市西
- 代表決定戦 四日市 5-6 桑名工業
- 北地区代表決定戦 四日市 10-0 桑名北
- 北地区代表決定戦 四日市 6-4 明野
- 北地区代表決定戦 四日市 8-9 桑名西

テニス

- ▽三重県高校総体
- 個人予選(4/15)
- 個人本戦(4/29・30・5/3・4)

- 団体戦(5/26・28)
- 男子団体戦 第6位
- 2回戦 四日市 2-1 鈴鹿高専
- 3回戦 四日市 2-1 鈴鹿中等教育
- 準々決勝 四日市 1-2 海星
- 順位決定1回戦 四日市 2-0 津西
- 5・6位決定戦 四日市 1-2 桑名西
- 女子団体戦
- 1回戦 四日市 1-2 鈴鹿高専
- 2回戦 四日市 1-2 松浦帆高
- 男子シングルス
- ベスト32 松浦帆高
- ベスト64 高岡亮
- ベスト16 松浦帆高・高岡亮
- 男子ダブルス
- ベスト32 成田浩輔・田中秀幸

ソフトテニス(男子)

- ▽三重県高校春季ソフトテニス大会県予選大会
- 個人戦(4/22・23)
- 5ペア出場
- ▽三重県高校春季ソフトテニス大会県予選大会
- 団体戦(4/29)
- 2回戦 四日市 1-2 津
- ▽三重県高校総体体育大会ソフトテニス競技県予選大会
- 個人戦(5/26・27)
- 9ペア出場
- ▽三重県高校総体体育大会ソフトテニス競技県予選大会
- 団体戦(5/28)
- 1回戦 四日市 2-1 稲生
- 2回戦 四日市 0-3 木本

バドミントン

- ▽三重県高等学校バドミントン秋季大会 個人戦(1/14・15)
- 男子3部 シングルス 3位 黒田 泰地
- 県高校新人大会 団体の部(2/7・4・5)
- 四日市A 2-1 四日市南A
- 3回戦 四日市A 2-0 飯南
- 4回戦 四日市A 1-2 伊勢A
- ベスト16 四日市B 0-2 松阪工業
- 2回戦 四日市B 0-2 朝明A
- 2回戦 四日市A 0-2 桑名西
- ▽三重県高校総体
- 個人戦(4/29・5/6) 団体戦(5/26・28)
- 男子1部ダブルス ベスト32 高梨 優貴組
- 男子シングルス ベスト32 福川 凌平
- 男子団体戦
- 2回戦 四日市 3-0 稲生
- 3回戦 四日市 2-3 津西
- 女子団体戦
- 2回戦 四日市 1-3 桑名北

柔道

- ▽三重県高校柔道新人大会(1/14・21)
- 男子個人戦 出場
- 男子団体戦 3人制リーグ戦 出場
- 四日市 2-1 紀南
- ▽三重県高校柔道選手権大会(4/15)
- 男子団体戦 3人制リーグ戦 出場
- 四日市 2-1 伊勢
- ▽三重県高校総体(5/27・28)
- 四日市 1-2 四日市南

- 男子団体戦
- 1回戦 四日市 2-3 海星
- ▽三重県高校剣道新人大会(1/21)
- 男子団体
- 1回戦 四日市 不戦勝 松阪工業
- 2回戦 四日市 0/0-10/5 四日市工業
- 女子団体
- 1回戦 四日市 0/0-10/5 三重
- ▽三重県高校剣道春季大会(4/23)
- 男子団体
- 1回戦 四日市 1/1-11/1代 いなへ
- 女子団体
- 1回戦 四日市 7/4-10/0 津工業 山崎津田
- 2回戦 四日市 0/0-10/6/3 白子
- ▽三重県高校総体(5/27・28)
- 男子団体
- 1回戦 四日市 9/5-10/0 川越
- 2回戦 四日市 0/0-17/4 高田
- 女子団体
- 1回戦 四日市 3/2-13/3 上野

陸上競技

- ▽三重県高校春季大会(5/6・7)
- 男子 5000m 6位 井上 月
- 女子 400m 3位 工藤 夕奈
- ▽三重県高校総体(5/26・28)
- 女子 400m 6位 工藤 夕奈
- 女子 800m 8位 工藤 夕奈
- 女子 5000m 8位 松田 萌可
- ▽東海高校総体(6/16)
- 女子 400m 出場 工藤 夕奈

サッカー

- ▽三重県高校サッカー新人大会(1/9・14)
- 2回戦 四日市 6-0 相可
- 3回戦 四日市 0-2 三重
- ▽三重県高校総体(5/3・7)
- 1回戦 四日市 2-0 亀山
- 2回戦 四日市 1-5 久居農林
- ▽全国高等学校ハンドボール選抜大会
- 兼 東海高等学校選抜大会 三重県予選会(12/24・27)
- 女子 予選トーナメント
- 1回戦 四日市 10-11 津
- 男子 予選トーナメント
- 1回戦 四日市 14-12 桑名
- 2回戦 四日市 9-29 四日市南
- ▽三重県高校総体(5/26・28)
- 女子
- 1回戦 四日市 21-15 上野
- 2回戦 四日市 3-17 四日市商業
- 男子
- 1回戦 四日市 25-19 桑名
- 2回戦 四日市 16-35 津

卓球

- ▽三重県高校総体
- 男子学校対抗の部(5/27)
- 2回戦 四日市 3-10 紀南
- 3回戦 四日市 3-11 津東
- 4回戦 四日市 1-3 伊勢
- 女子学校対抗の部(5/27)
- 2回戦 四日市 3-12 伊賀白鳳

葦原海(あしはらみゆう)さん 人権講演会のお知らせ

本年度の人権講演会は、東京パラリンピック閉会式パフォーマンスや、ミラノコレクション、パリコレクションのランウェイを車椅子で歩き、モデル世界デビュー、MISIAのアリーナツアーではバックダンサーとして出演されSNS総フォロワー数70万人のインフルエンサー・観光アドバイザーの葦原海(あしはらみゆう)さんが障がい者差別について四日市高校で講演をさせていただけることになりました。高校在学中の16歳で事故に遭い、両足を切断し車椅子ユーザーになった葦原海さん。在校生に障がい者差別を考え、差別解消に向けて行動が出来る様になって欲しいと考え企画しました。保護者の方もご参加いただけます。公演日令和5年11月15日(水曜日)生徒を通じて日程が近くなりましたらご案内いたします。

人権教育推進委員会 森本 彩

差別や特別扱いをする以前に、「知らない」で終わっている。それが健常者と障がい者に壁ができる大きな原因だ。だけど、知れば、世界は変わる。車椅子に乗っているとかが障がい者とか関係なしに、声をかけてくれる。義務感で「お手伝いしましょうか?」じゃなく、「こんにちは」って。私も車椅子ユーザーとしてではなく、葦原海として「こんにちは」と答える。これって心のバリアフリーにつながる1歩じゃない? そう思えたとき、世界の中で「私の役目」を果たす、そのスタートラインに立った気がした。

文春オンライン6月3日
葦原海/Webオリジナル 抜粋

SSH スーパーサイエンスハイスクール 取組報告

2023
年度の予定



※延期・中止等の
変更になる場合があります。

8月

英語能力開発プログラム

9月

SSH科学実験講座
2年生「探究Ⅱ」中間報告会(校内)

10月

SSH国内研修(つくば・沖縄)
SSH大学出前講座

12月

SSHグローバル企業見学

1月

四高版「科学の祭典」

3月

Mie SSH Research Presentation 2023



SSHグローバル企業見学

2022年12月2日(金)

地元四日市のグローバル企業を訪問・見学することで、将来自分たちがどのように社会貢献していくかを考えるSSHグローバル企業見学を実施しました。今年度は、東ソー株式会社を訪問し、会社の概要説明や海外での事業等のお話を聞き、工場見学をさせて頂きました。また、若手の研究員の方々と座談会を行い、「なぜこの会社に入ったのか?」「化学関係の企業に就職するにはどんな学習をしておくべきか?」等、様々な質問にお答えいただきました。



SSH白熱英語講座

2022年12月6日(火)・12月13日(火)・12月20日(火)

Edward Scruggs 先生(南山大学講師)をお迎えし、SSH白熱英語講座を実施し、1、2年生13名が参加しました。本講座は英語で考え、議論する力を身につけることを目的として全て英語を用いて行われています。参加生徒は90分間テンポよく繰り返される先生からの質問のスピーチについて行くのが大変だと初めのうちは感じながらも、次第に反応できるようになり、リスニング能力と自分の意見を即興で述べる表現力が身につくという達成感を得られるようになりました。



四高版「科学の祭典」

2023年1月28日(土)

2年生の「探究Ⅱ」研究成果発表会である四高版「科学の祭典」を開催しました。一人1テーマでの発表で学年全員の発表会で盛大に行われました。口頭発表部門とポスター発表部門をそれぞれ行い、1年生も交えての活発な意見交換も行われました。



第70回 三生物研究発表会

2023年2月4日(土)

三重県立博物館において、小・中・高校生による生物研究発表会が開催され、本校から生徒1名が参加しました。その結果、本生徒の発表は、三重県総合博物館賞を受賞しました。



中国河南省の高校生との
オンライン交流

2023年3月2日(木)

三重県国際戦略課の中国河南省 鄭州(ていしゅう)外国語学校とのオンライン交流に、2年生59名が参加しました。全体を4つのグループに分け、自己紹介や自分の興味のある事柄についてなど、全て英語を使って会話をしました。会話を進めるうちお互いすぐに打ち解けて交流を深めることができました。



京都大学
ポスターセッション2022

2023年3月18日(土)

京都大学にて、本校生徒2名で1年間取り組んできた成果を発表しました。関西を中心に多くの高校生がポスター発表し、活発な議論が繰り広げられました。



第22回再生医療学会総会

2023年3月24日(金)

京都国際会館にて、本校生徒10名が3グループに分かれて、再生医療をテーマに研究発表を行いました。それぞれ違う視点での発表でしたが、そのうちの1グループが金賞を受賞できました。



Mie SSH Research
Presentation 2022

2023年3月25日(土)

県内SSH校による英語での研究発表会「Mie SSH Research Presentation 2022」を三重県総合文化センターにて開催しました。国際舞台で自身の考えを発表していくよう、自分の研究発表について英語でコミュニケーションを図ることを目的としています。本校は主催校として、実行、司会、アイスブレイキング等の運営についても本校の生徒が担当し、事前に丁寧な準備とリハーサルを重ねました。口頭発表およびポスター発表が行われ、特に本校との合同発表もありました。



水産高校合同実習

2023年4月6日(木)

三重県立水産高校にて、本校生物部の生徒が日頃から行っている海洋生物の飼育や伊勢湾の環境についての合同学習会を実施しました。特に、実習場や練習船など多くの施設を利用していただきました。



PDA即興型英語
ディベート体験会

2023年5月19日(金)

PDA即興型英語ディベート校内体験会を実施し、1、2年生11名が参加しました。3名を1チームとし、Zoomを用いたオンライン上で議題に対するディベートを行いました。ジャッジを認めるために具体例や理由を考えることや、即興で相手の意見に反論すること等、難しかった点も多かったようですが、もっと英語の勉強を頑張りたいという意欲に繋がりました。



SSH講演会

2023年5月22日(月)

●講師:日本女子大学 理学部 数物情報科学科 教授 奥村 幸子 先生 ●演題:「電波天文学と南米チリの空」3年生そらって体育館での講演会を開催しました。天文学に興味を持ったきっかけや、その後の経緯、国際研究プロジェクトでの体験談など、ご自身の経験をもとに、特に電波天文学の魅力について話していただきました。講演会終了後も個別に質疑応答をさせて頂きました。

ダブルクリック(編集後記)
お忙しい中、会報の発行に当たり原稿をお寄せいただいた皆様、本当にありがとうございます。
この度の発行で、会報も通算100号を数えることになり、100号を記念して全ページカラーとし、内容についても普段とは違った形の執筆者もお願いをしたことで、より読み応えのある内容となったように感じます。
PTA会員の皆様には今後とも、学校を通してご意見をお寄せいただきますようよろしくお願い致します。

おめでとうございます!!

この度、2023年春の叙勲において本校OBでイオン創業者である岡田卓也さん(イオン株式会社 社名誉会長相談役、公益財団法人岡田文化財団理事長、公益財団法人イオン環境財団名誉理事長)が最高位の旭日大綬章を受章されました。本校には、岡田文化財団の風樹会による奨学金支給をはじめ、体育館への緞帳・暗幕カーテンの寄贈等をしていただきました。また、2017年には、公益財団法人イオンワンパーセントクラブが推進するティーンエイジアンバサダー事業で、ベトナムのハノイにおいて、本校生徒と桜の木の新苗の植樹を共にしていただいたりと物心両面で多大なるご支援・ご協力をいただいています。今回、PTA会報100号において、お祝いの言葉とともに受勲を紹介させていただきます。
(2017年ベトナム・ハノイでの植樹の様子)

